

「本部」土屋粹一派の「佐倉支部大会」を粉碎!

(10月31日)



81.11.4
No.886

国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八(動力車会館)
(鉄電)二九三五(六・公衆)四三三(三)二七二〇七

県警の出動を要請し、ボニの6・12デッチあげを策動、機動隊・私服デカと当局白腕に守られ、20名足らずで集会

※※※※※

十月三十一日、組合運動とはおよそ無縁な動労「本部」派の連中が、盟友・千葉県警と当局に保護を要請し、一〇〇名の機動隊・五〇名の当局・課員(白腕章)に守られながら、第二の6・12を策動した。しかし、佐倉支部を先頭とした闘いによって、デッチあげ「大会」の実態と、権力と一体となった動労千葉破壊策動をもの見事に粉碎した。

※※※※※

「告訴は当然」とうそぶく
土屋粹を許すな!

全組合員のみなさん!

「動労佐倉支部大会」をデッチあげようとし、権力・当局に守られコソコソ逃げまわり、三階にとじこもった労働組合の大会がどこにあるだろうか。

三年前、これ程はじめな動労「本部」の姿を誰が想像しただろうか。

かつて動労「本部」革マル反動分子は、動労千葉の組合員に対して幾度となくテロ・リンチを加えてきた。津山大会では機動隊の目前で、家族組合員の見ている前で公然とテロ・リンチを加えてきた。

4・17津田沼では、学生革マルを先頭にわれわれ十名の仲間にテロ・リンチを加え、動労千葉組織破壊攻撃を行った。そして数万の全国動員と数億の金を使い、それでもダメだと当局を使って首切りを要求し、そのかわりに当局の合理化の尖兵になる事を密約し、その忠実な約束を実行し、三月ジェット決戦のスト破りを行い、今度は警察権力に動労千葉の弾圧要請を行う6・12事件をデッチあげ、告訴し、6名の仲間を権力に売り渡し、警察労働運動にまで転落した。

こんな連中が、佐倉機関区で「支部大会」を開くなどという事が、どうして許せようか。

更に許せぬ事は、動労「本部」革マル反動分子のその手先となった土屋粹が「全国組織部長会議」において、「告訴は正当であった。千葉動労は瓦解寸前である。」とほざき、「関東構運評議委員会」で、「今年度中に三〇〇組織をめざす。」などと発言した。

労働組合としての路線も闘気もない松崎の手先、土屋粹らの狙いがどこにあるかは明らかである。数々のテロ・リンチの下手人・三信ビル村上や竹内・コロビ屋齊藤吉司らは、「支部大会」に千葉県警の出動を要請し、第二の6・12デッチ上

げを策動したのだ。

前夜から佐倉機関区のまわりを私服が徘徊し、当日、装甲車を配置した県警機動隊一〇〇名と当局課員(白腕章)五〇名がものものしい弾圧態勢をしく中、決起した佐倉支部青年部を先頭とする動労千葉の組合員は断固とした「本部」派追及行動を展開した。彼等は誰一人反論できず、当局にかくれて逃げまわり、齊藤吉司にいたっては、カメラをかまえた私服デカを従えて登場するという見え見えの連携プレーを演じた。

第二の6・12デッチあげ策動を粉碎するとともに、デッチあげ「支部大会」参加者が二十名にも満たないという破産を暴露した。

佐倉・津田沼で、
組織的危機を迎えた「本部」派

動労「本部」反動分子の路線的破綻は、今や全労働者の前に明らかである。かつての左翼的言辭でのごまかしも効かず、その反動ぶりを天下にさらしている。千葉県労連にも加盟できず、デッチあげ「銚子支部」にいたっては銚子地区労からも排除され、権力・当局の手先として労働組合とは名ばかりの集団に転落している。追いつめられているのは「本部」派であり、「まもなく三〇〇人の組織」「動労千葉は瓦解寸前」とほざいた「本部」派を、容赦なくわれわれが解体してやるうではないか。

ボニの「本部」派を「毒づき」

十一時三〇分開催された総括集会において、水野副委員長は「デッチあげ大会の実態を見事に粉碎した闘いの勝利をお互いに確認し、三年間の組織争闘戦の成果の上に、今後日常的に本部反動分子を追放していく。その闘いをぬきに当局の大合理化攻撃と労働運動の右傾化を粉碎できない。」と決意を表明した。各支部代表の決意表明をうけ、吉岡執行委員の団結カンパロウをもって闘争の集約を行った。